

日本語になったフランス語！意味の違いに要注意！



今回は**日本語になったフランス語をご紹介します**

。同じ言葉でも日本とは意味が違う場合も多いです。褒め言葉のつもりが、相手にとっては「馬鹿にされた！」とトラブルの原因になることもあるので気をつけてくださいね。

日本語になったフランス語で多い用語

日本でフランス語を教えていた頃、教材制作のため、日本語に入っているフランス語の単語を集めたことがあります。予想に違わず、圧倒的に多かったのは次の4種の用語でした。

- プレタポルテ、オートクチュールなどの服飾関係用語
- エクレア、クロワッサン、ムースなどの製菓用語
- ポトフ、フォンドボーなどの料理用語
- ルージュ、オードトワレなどの化粧品用語

木靴 Sabotの深い意味



異色だったのが**クーデタ、サボタージュ**

。これらの語が「日本語で通じるよ。」と言うと、大抵のフランス人は「困ったなあ。」という顔をします。フランスのイメージがこれじゃあなあと、愛国心が刺激されるのでしょうか。

ところで、サボタージュといは、**木靴 = Sabot (サボ)**

に由来することをご存知でしょうか？日本ではオランダ土産として知られるあの木靴。フランスでは戦前まで**労働者の履物として使われていました**。

産業革命以後、経営者への**抗議運動**

の際労働者たちが機械に

木靴を投げ込み、故意に故障させたことから、

動詞のsaboter (妨害する) や名詞のサボタージュが生まれたのです。

上に挙げた言葉は、基本的に、フランスでの意味そのままに日本で使われていますが、実は、日本語に入ったフランス語の中には、最初の意味と異なる意で使われているものも多くあります。

キュロット フランスではどんな意味



服飾関係だと、たとえばキュロット
。キュロットは、19世紀初頭までは男性の履く半ズボンの意味で使われていました。その辺りは
今の日本でいうキュロットとそれほどかけ離れたものではありません。



ですが、実は**現代フランスでは、culotte**という**女性や子供の下着**を指します。これらはslip（スリッパ）と呼ばれることもありますが、これまた日本語で使う「スリッパ」とは全く指し示すものが異なることは皆さんもご存知ですよ。

フランス語で「ベスト」は上着？



そのほかベスト
と日本語
で言うと、普通シ
ヤツの上に着る袖のない中衣を指し
ますが、フランス語では**長袖のスーツの上着やジャケット**のことです。

フランスでは「ナイーブ」の使い方に要注意

形容詞もなかなかの曲者です。ナイーブ

という日本語の形容詞は、どちらかと言うと”純情で繊細な心を持つ”という意味で日本では肯定的に使われることが多いようです。

ところが、フランス語のnaïf

/naïvəは、“馬鹿正直な”とか、“お人好しな”とか、むしろ

否定的な意味で使われることのほうが多い

のです。意図せず人の悪口になってしまわないように気を付けてくださいね。

フランスの「ソバージュ」は髪型ではない！

日本で80年代、緩やかなウェーブの

髪型を表すのに使われたソバージュという言葉もフランス語の形容詞sauvageから来ています。

sauvageは、“野生の”

という意味で動物などを形容して使われる一方で、景色や人についても使われます。

景色の場合は、“人の手の入っていない”、“荒涼とした”

というニュアンス。人について使う場合は、

“他人となかなか打ち解けない”とか、“**よそ者を受け入れない**”

というニュアンスになります。

初めて保育園に入った幼児が、他の子と交わらず、一人ぼっちでいるのを好む時など、「あの子はsauvageだね。」という風に使ったりします。頭の中で“野生の”と変換しないように気を付けましょう。

最後に

外国語に入った言葉は、「似て非なるもの」を表すことがありますから、便利なようで厄介なものでもあります。使ってみる前に、意味やニュアンスを確認できればいいですね。

もしフランス人と話していて、「この言葉、この意味で使っているのかな？」と迷ったら、「日

本語ではこんな意味なんだけど・・・。」と、話題にしてみるのも良いでしょう。きっと、その場が盛り上がりますよ。

執筆：ゆき



オンラインフランス語学校
ENSEMBLE EN FRANÇAIS
アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

